

いずもの話題

11月6日 いずもの地に豊かな音色響かせ



11月6日、ビッグハート出雲を会場に『いずも音楽コンクール』を開催しました。市の取り組む総合芸術文化振興の一環として、子どもたちがより高度な表現力や演奏能力を身につけてほしいと、平成14年から開催し、今年4回目を迎えたものです。

当日は、県内各地から参加した小中学生が重唱(7組15人)独唱(70人)に分かれて、美しい歌声を響かせました。また、弦楽器部門には8人が参加。すばらしい演奏で観客を魅了しました。

音楽、演劇、生活文化や伝統芸能など芸術文化の振興に取り組む出雲市。プロの演奏など本物に触れる一方で、そこで体感したすばらしさを自ら発表する場も積極的に設けています。このようなコンクールをきっかけに、子どもたちがますます音楽を好きになり、技能も高めていってほしいと考えています。



最優秀賞 中学校歌唱 後藤里菜さん(出雲三中 2年) 写真右下
小学校歌唱 成相伸哉さん(北陽小 5年) 写真左下
弦楽器 春日真菜さん(湖陵中 2年) 写真上

11月5日 ノーベル賞受賞者利根川進さんが出雲へ

11月5日、出雲科学館開館3周年記念の特別講演会を出雲市民会館で行いました。今年の講師は1987年にノーベル生理学・医学賞を受賞し、現在は米国マサチューセッツ工科大学学習・記憶研究センター長を務める利根川進さん。『私の歩んだ道』と題して、大学院進学や海外へ留学した経緯をはじめ、環境やスタッフに恵まれてすばらしい研究成果を得たことなどの話に約650人の市民が聞き入りました。

講演後の質問コーナーでは、「研究していて、つらいことはなんですか」との質問に「研究の過程で立てた仮説はたいていはずれてしまうことかな」また、「科学者になった一番のきっかけは」との問いには「科学者は自分のやりたいようにできると思ったからです。サラリーマンになって、合わない上司と仕事するのはいやだ、と思ったからです」と、ユーモアを交えて答えていました。



県外から参加した大学生も積極的に質問



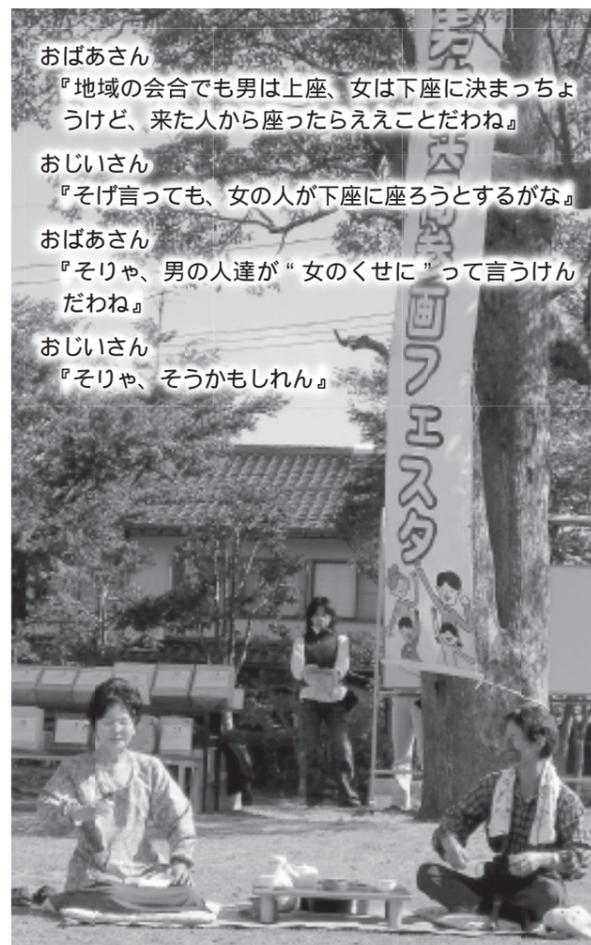
最近取り組んでいる記憶に関する脳内遺伝子などの研究について説明する利根川進さん

世界を代表する最先端の科学者から、直接話を聞ける貴重な機会を得て、参加者は目を輝かせていました。

身近なところから男女共同参画社会を考えよう

10月15日から21日の男女共同参画週間には、新出雲市の合併を機に旧2市4町で活動していた関係団体が結成した出雲市男女共同参画のまちづくり実行委員会(代表 福代俊子さん)を中心に、市民と行政が協働でさまざまなイベントを実施しました。

10月16日には、出雲市女性センターで「男女共同参画フェスタ2005」を開催。男女(とも)につくろう新出雲をキャッチフレーズに、さまざまな催し物、出店、展示などをを行い、約1,000人の



劇団青い鳥による寸劇の一コマ。あなたも思い当たることはありませんか(10月16日 くすのき広場)

市民でにぎわいました。その中で行われた劇団青い鳥による寸劇「三原家の場合」では、いまだに家庭や地域でみられる「男だから」「女のくせに」といった性別による決め付けを出雲弁でもしるく紹介。劇を通じて、男女が出来ることは分け合い、助け合っていくべきではと観客に意識のあり方を問いました。

あなたも、身のまわりにみられる「性別による決め付け」を題材にして、男女がお互いを尊重する社会について話し合ってみませんか。

川柳を募集します

男女共同参画社会の実現を目指して、「男の子だから」「女のくせに」といった決め付けではなく、一人ひとりの個性を大切にしたい社会にしたい...そんな気持ちを込めた川柳を募集します。

募集内容 / 男女共同参画にまちづくり「思いやりってどんなこと」～男女の役割を決めつけしないで、お互いが協力しよう 家事育児、介護、各種役員、育児休業など ～をテーマとした五・七・五の川柳
(応募点数に制限はありませんが、未発表作品に限ります)
優秀作品は表彰します(賞状、副賞)

募集期限 / 平成18年1月20日(金)
応募資格 / 出雲市内に在住および勤務・通学している方
申し込み・おたずね / はがき、ファクス、Eメールのいずれかに、作品、氏名(ペンネーム)、年齢、住所(市外の場合は、職場または学校名も記入)、性別、電話番号を記入して、〒693-0011 大津町2096-3
出雲市男女共同参画のまちづくり実行委員会事務局
出雲市女性センター TEL 22-2055 FAX 22-2085
Eメール: women@local.city.izumo.shimane.jp

